

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296300060		
法人名	株式会社 健康第一調剤薬局		
事業所名	グループホームたんより かわせみユニット		
所在地	静岡県周智郡森町草ヶ谷212-1		
自己評価作成日	平成30年2月7日	評価結果市町村受理日	平成30年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kami=true&amp;Jivovosid=2296300060-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kami=true&amp;Jivovosid=2296300060-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

出来るだけ家庭的な雰囲気忘れず、入居者にとって心地よい生活空間となり、第二の我が家と感じていただけるよう、日々支援しています。入居者一人ひとりのできること、能力や状態を理解しそれぞれの方が役割を担うことで、今ここに自分が存在している意義を実感できるよう心掛けています。穏やかな生活の場の確保だけでなく、季節の行事や外出なども積極的にこなしています。また、入居者だけでなくご家族との時間も大切に、信頼関係を構築できるよう努めています。地域の方々との交流も今では当たり前になりつつあります。役場や病院とも連絡を取り合い地域密着型サービスとしての当施設の存在を確立していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が替わり、新法人の方針が事業所、職員にとって「よかった」と思えることが多く、「従業員満足は利用者満足にもつながる」「職員がこれがいい、大切だと思えばやってもいいですよ」との声に押されて、何事も緩やかになったとの変化が生まれています。その成果の一つとして地域との交流が増え、昨年7月には地域包括支援センターと併催で森町初の「認知症カフェ」開催が叶い、近隣から約50名が集うに至り第二回開催につながっています。二回目は主催メンバーに高校も加わり、会場をたんよりに移すとともに高校生主体で企画運営されるということと話題を呼び、静岡新聞「全国認知症カフェガイド on the WEB」にも掲載されました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は『やさしさ・安心・安寧』を掲げ、入居者様一人一人がその人らしく穏やかに生活できる場を提供することを常に意識しています。また、理念とは別にたんよりのスローガンを掲げ、各ユニットで目標としています。	母体が変わったことで職員にも芽生えがあり、特に看取りを機に職員の意識が一気に高まり、昨年12月にはボトムアップで職員全員でのスローガン策定に至っています。「スマイル 飛躍 一致団結」と事務所、各ユニットにスローガンを掲げ、職員が一つに成っていることが視えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のボランティアの方々や定期的に来所され、レクリエーション参加や畑の手入れ、農作物の差し入れをして下さっています。ホームのイベントの参加していただいたり、またホームからも積極的に地域のイベントに参加し、交流の場が広がっています。	地元高校生と協働の「オレンジカフェ」ではチラシ、掲示物、キャラクターデザイン、しおりやコースター、クッキー作りを20数名が尽力くださり、100名を超える来客者をお茶と手作りクッキーでもてなすことが叶い、来年度も新2年生がプロジェクトを受け継いでくれることになっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	たんよりの現状については、たんより通信として町内に回覧配布をしたり、運営推進会議で報告したりしています。また昨年度は2回ほど認知症カフェを開催し、地域の方と介護や認知症について話し合う場を設け、お互いに理解を深めました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在のたんよりの取り組みや課題等を報告し、ご意見をいただいています。実際にレクリエーションの提案・アドバイスを受け、認知症カフェや高校生との交流、また日々のアクティビティに取り入れています。	「ぬり絵ばかりしている」との意見には個人ファイルを作成のうえ同じことの繰り返しにならないように改善し、脳トレにも取り組むようになった件をはじめ、運営推進会議での話し合いが事業所の運営に活かされています。	遠方に住む家族もいるため、運営推進会議の内容は簡易版となっても届けられると、なお良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場や地域包括の窓口には積極的に訪問し、相談や協力を直接行うようにしています。町の介護相談員とも連絡を取り合い、イベント等には意見をいただき、参加もしていただいています。認知症カフェも共同開催しました。	森町認知症対策委員会のメンバーとなり半年ごとの会議に出席しており、森町初の認知症カフェの共同開催も成し、今後も行政、地域と協力してネットワーク作りに努めていく考えています。介護相談員も認知症カフェでは手作り菓子の提供とともにウェイトレスも担当くださっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を継続しており、日々のケアに取り組んでいます。玄関については、拘束というよりも防犯の要素を含み、実際に防犯訓練も行いました。外出したい入居者には、職員が付き添い対応しています。	近隣に住む警察OBより提案があり、TV取材も入る防犯訓練を実施し「玄関は鍵をかけた方がよい」ということになりましたが、玄関以外は開放しています。ユニット間は廊下と事務室、通り抜けできる箇所が2つあり、訪問当日もぬり絵で交流する閉塞感のない生活を視認しました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ニュースや他施設の状況等も含め、虐待について職員で考える機会を持つようにしています。ホーム内で勉強会を行い、入居者への対応方法を学習する機会を持ち、常に意識するように努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、該当する入居者はいないが、知識のある職員が話題を提示し、話し合うことはあります。今後はホーム内だけでなく地域の勉強会等も活用し、知識を深めていくようにしていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約についてはご家族様にお時間を確保していただくようにし、丁寧に説明することを心掛けています。特に入居時は不安だと思われるため、できるだけ入居者やご家族の立場に立つようして分かりやすい説明を行うようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時には必ず状態報告を行い、ご家族の意見も聞きながらケアを行うようにしています。また、運営推進会議には毎回違うご家族に出席していただき、ご家族の思いを表出いただいています。	日頃の様子が写真で判る「たんより通信」と、管理者が医療職としての視点も入れた手紙を毎月家族に送付しています。現在も家族会という形態はありませんが、9月に開催した「ご家族様とたんよりカフェ」の実績を糧に「年に一度は集まってもらえたら～」と管理者は考えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日、朝礼時にカンファレンスを行い、問題点や改善点を持ち越さないように解決に努めています。月に1度のホーム会議やユニット会議等の開催、また半年毎に代表者と面接を行い、業務に対する意向を確認する場としています。	係はレクリエーション、掲示板、カフェ、通信、写真のほか6種、委員は運営、教育、感染症等総計8種と職員が責任感をもって取組む制度が整うとともに、母体が替わったことで職員の意識にも変化があり、スローガンは職員全員で考えるに至っていて、主体性が芽生えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自の目標を設定し、それを達成できるよう日々の業務やイベント等の取り組みにつなげ、仕事としてのやりがいにつなげられるようにしています。また、職員一人一人の事情を加味し、働きやすい環境となるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特にホーム内での勉強会や研修を主に行っています。全員出席で、日々の業務に取り入れられるような内容を中心としています。職員それぞれの資格や経験も違うため、各職員に合ったトレーニングを行うようにし、それぞれが自信を持てるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今までになかった、町内のグループホームや小規模多機能ホームとの交流が頻繁にできるようになり、職員や入居者の行き来をするようになりました。認知症カフェも一緒に開催したり、職員同士も交流ができるようになってきています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学时や入居申し込み、また事前訪問に至るまで、またそれから入居までに、病状経過や現状、心配や不安なことを把握するため、ケアマネージャーや利用施設、地域包括等と連絡を取り合い、入居者を理解するように努め、安心できるようなケア提供ができるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記において、困っていたり不安に思うこと、疑問点や希望などを確認、情報収集し、入居時までに環境を整え、ご家族が問題と思うことを一緒に解消できるようにしていきます。契約時においても情報交換をしながら、関係を築いていきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やケアマネージャー、また病院やデイ、ショートステイ等と常に連携を図り、ご本人にとり今どうしたら一番ベストなのか、何が必要なのかを見極め、サービス決定に参加しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内の家事等(洗濯物を干す・たたむ・食事準備・後片付け・掃除・玄関先の植木の手入れ・畑の管理や収穫など)入居者ができることは一緒に行っています。現に、一人一人の役割分担がなされており、入居者同士が協力合っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が入居者と入居以前からの関係が保てるよう、面会や外出泊はいつでも自由にできるようにしています。また、イベントやレクリエーションなどにも気軽に参加していただいています。ご家族様と一緒に過ごすことも年に1度開催しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の思い出話や昔話について傾聴するようになっています。なじみの人や場所については、連絡を取ったり外出したりして、関係が途切れないよう支援しています。	岡崎の花火、ドライブ、中田島海岸、自宅外泊と、家族が其々馴染みの場所へ連れ出していて、娘とカフェでケーキを食べたことを嬉しそうに話してくれる人、親友が入居して隣同士の居室で仲睦まじく過ごせている人もいます。また華道師範には事業所の生け花をお願いしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う・合わないが生じてしまうのは避けられないことですが、入居者同士の関係性を把握し、適宜、ホールでの席の配置等を考慮しています。イベントやレクリエーション、趣味の場においても並び方や順番等配慮し孤立してしまうことのないようにしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状では、ほとんどの入居者が看取りまで入居していますが、今後退去等があれば必要に応じ経過のフォローや支援対応していくように努めます。死亡退去の方には、デスカンファレンスを通して職員からのメッセージをご家族へ届けるようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の情報等から、入居者の希望や意向を把握し対応しています。また入居後は、本人やご家族から情報収集を継続し、ニーズを相談しながら個別的なケアを行うようにしています。	傾聴に努めるとともに、アセスメントは定期的に見直しています。昼夜逆転、生活リズムが不安定な利用者の話をじっくり聞くことで、幾つもの鉢植えを居室や玄関先に置いて育てるに至り、今では「世話をするのが生きがいのようになって～」と話すほど、不定愁訴が解消された例もあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設見学や入居申し込み、事前訪問、契約時等に生活歴や今までの経過を伺い、把握するようにしています。また不足ならばケアマネージャーや利用していた施設等に確認するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況を記録に残し、職員一人一人が情報を共有して、できることは行っていただくようなケアにつなげています。日頃より提携病院との連携を図り、体調変化があれば速やかに受診するなど対応しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の訴えやご家族の意見や希望を反映し、職員間でカンファレンスにて検討し、介護計画を立案しています。現状を常に把握するようにし、反映させるようにしています。	認知症介護実践者研修修了者は4名と潤沢な人材を以て、モニタリングは担当職員がおこない、シートには○△×で達成度とコメントも記載、モニタリングシートをもとにカンファレンスや介護記録を参考に計画作成担当者がプランを作成しており、チーム連携が成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の様子・状態を記録としてカルテないし記録用紙に記入しています。状態変化やケアの変更・また職員の情報共有の必要時はカンファレンスを行い、計画の見直し等に反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状況に応じて、希望に出来るだけ即した対応(具体的には定期外の入浴・ドライブや買い物等の外出等・植木の手入れ管理等)を行っています。ご家族にも適宜協力をお願いしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方々や地域役員、またボランティアの方がいつでも気軽に来所していただけるようにしています。そのために日頃からコミュニケーションを図り、信頼関係を築くよう心掛けています。イベントやレクリエーションなど、普段できない活動にも協力していただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診は月に一度、公立森町病院の院長が主治医として診察しています。入居者に体調変化がある場合は、病院の往診担当看護師や薬剤師と連携を図り、必要であればスムーズに受診ができるようにしています。	全員が協力医に変更しており、月に一度訪問診療を受けています。管理者が看護師のため協力医や薬剤師との連携が取りやすく、電話連絡で詳細を伝えて直接指示を仰ぐことが可能なためスピーディーな対応ができています。医療情報は介護記録と看護師カルテで共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	たんより職員の看護師が介護職員と連携を図りながら、病状や状態変化に対応しています。看護師は24時間待機しており、少しの変化でも速やかに報告し、必要であれば病院看護師へ相談・連絡し対応するようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前より病院と連絡を取り合うようにしています。入院が決定した時点で、ホーム入居中の生活状況を速やかに伝達し、入院生活において活用していただいています。面談等にも積極的に参加し出来るだけ早期に退院できるよう、医師を始め病院スタッフと情報交換しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時のタイミングで、ご家族と状態変化や病状悪化・看取りの時期になった時にどのようにしていくのかということを話し合う機会を持っています。また初回往診時にご家族立ち合いの下、主治医と共に本人・ご家族の意思の確認をしています。	契約時に、重度化に係る指針で説明、同意を得るほか、協力医からの明瞭な指示を以て意思確認書も同時に取っています。今年度は3名をお見送りし、デスカンファレンスでは大切な人を喪失したことを職員で共有しています。管理者自らが作成した資料での勉強会の実施もあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応について、勉強会や研修を随時行っています。地域の防災訓練などにも参加し、応急手当や初期対応の訓練を一緒に行うようなこともしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防火・防災・水害訓練を行い、避難する方法を職員だけでなく入居者と共に身につけるようにしています。また地域の町内会長や役員の方、近隣の方にも日頃から実際の災害発生を意識して、協力していただける体制をとっています。	向かいに住む消防署職員OBと親しくなり、訓練立ち会いは毛布搬送、訓練用マネキンでの心肺蘇生の指導を受け、他にも「発電機はあるか」「まずは自分の命を救え、火元を確認、連絡が一番、自分の携帯を持って、消防署からは4分で来る」等多様な助言が得られています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症があっても入居者の人格を尊重し、人生の大先輩として対応するよう意識してケアをしています。入居者一人ひとりの世界観を尊重し、人としての誇りやプライバシーを損ねないようにしています。勉強会も行っていきます。	ユマニチュード研修から、「話し方もノックする気持ちで」という内容で講習をおこなうとともに、内容を繰り返し随所に取り入れています。昼食時、むせた利用者に新人男性職員がそっと寄り添い、目線を合わせて声をかけている様子はこの指導が反映されていると受け止められます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりの気持ちや思いを尊重し、表出しやすい状況作りに努めています。また、職員が決めるのではなく、入居者本人が自己決定し選択できるような生活支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日、また一週間等の予定はありますが、入居者の状態や状況により、強制をすることなく自分のペースで生活できるよう、臨機応変に対応しています。希望があればレクリエーションや散歩、ドライブ、買い物等の支援もします。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者一人ひとりの好みや趣向を把握し、髪型やお化粧、ファッションなど本人の希望に沿うよう支援しています。イベントとしてお化粧レクやネイルレクを行うなど、おしゃれの気持ちを忘れないでいただくようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理レクなどにおいて、野菜の下ごしらえや簡単な調理は、危険のないよう出来る入居者をお願いし、職員と共に行っています。後片付けは入居者の役割として位置付けられ、自ら進んで行ってくれています。	ご飯と味噌汁は各ユニットで調理し、総菜はクックチルで業者から毎日届くものを湯煎して盛り付けています。毎月の誕生会は手作りケーキで祝い、誕生日当日は本人の食べたいものを聞いて外に食事にでており、時にはカップラーメンの日も設け、食の楽しみを広げています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や以前からの嗜好、好みを考慮しながら、入居者一人ひとりの栄養状態、水分摂取量を把握しています。食欲がない、または状態変化により摂取困難となった場合は、食べたいもの、摂取できるものを提供するようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各入居者に対し口腔ケアを促し、自分で出来ない人には介助しています。義歯使用者が多いので、管理もします。必要ならば速やかに歯科受診も検討し、対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	まずは入居後の排泄パターンや回数を記録し、把握するように努めています。できるだけトイレで排泄ができるよう、サインを見逃さないようにしています。訴えない方は、誘導し対応しています。	トイレの場所が分からず倉庫で排泄してしまう人に「サインはないか」と探ったり時間で誘導、他にも夜間誘導するも「眠れない」と訴えがあり、離床センサーでパターンを把握してリズムをつかみトイレでの排泄がなかった事例もあり、総じて探索と試行が繰り返されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬の処方に頼ることなく、乳製品やオリゴ糖、オリーブオイル等を取り入れ、排泄を促すようにしています。全身体操を行うなど、運動面でも排便できるよう対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員や施設の都合で入浴するのではなく、入居者が入りたいタイミングで入浴できるように配慮しています。拒否がある場合は無理強いすることなくタイミングを図って対応しています。	さざんかユニットにはミストシャワー機械浴と一般浴槽あり、機械浴は現在2名が利用しています。週二回、時間帯は午前中としていますが、「午後がいい」「毎日入りたい」という人の希望に応じて、浴剤は桜、ゆずと季節ごとに香りを変えて楽しんでます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者それぞれの生活リズムを把握し、その人のペースで休息や入眠が出来るように対応しています。常識にとらわれず、寝つきの悪い方には夜の女子会を行うなど、職員も一緒に寄り添うようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問薬剤管理指導を利用しており、薬剤に関しては担当薬剤師に確認し、指導を得ています。効果や副作用、用法、用量を理解し、薬剤よっての体調の変化を観察しています。介護職員にも指導し、確実に内服や塗布が出来るよう対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お掃除や食事の片付け、洗濯物畳み、畑仕事や植木の手入れなど、入居者それぞれの得意な分野で役割分担をし、活躍の場を提供しています。やりがいを感じ、生きている実感を抱いていただけるよう、支援します。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外の空気を吸いたい時には、玄関先で女子会をすることがあります。また、希望があれば散歩やドライブ、買い物に出かけます。季節を感じる場所(桜や菖蒲、紅葉等)へは積極的に出かけています。外出レクとして、たんよりバス旅行等も行いました。	好天の玄関先での女子会は定番となり、お茶とお菓子で日向ぼっこしたり、鉢植えの手入れをする人もいます。気分転換の散歩はありますが、特段散歩を生活の中に位置付けてはいません。「全員で出たいね」と一念発起、バスをチャーターして御前崎へと遠出した日もあります。	散歩が位置付けられると良いとは思いますが、難しい場合は室内歩行のプログラムを一度検討されることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人ひとりにつき小口現金(お小遣い)を預かっており、一緒に買い物に行ったり、職員が代行して買ったりしています。お金を使った場合には、本人に説明し、理解していただくようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については本人の希望があれば随時対応しています。実際にお話されると喜び、落ち着きます。手紙については預かり次第速やかに投函します。年末には全員が年賀状を書きました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の目線ではなく、入居者やご家族の目線で環境を整え、居心地が良い空間となるよう常に意識するようにしています。自宅のようにリラックスできるよう、時には模様替えや配置換えを行います。壁の装飾や絵画等も季節を意識して飾っています。	節分を過ぎてすぐ近所の方が自宅の雛人形を持ち込み、玄関を入ってすぐの相談室に部屋いっぱい見事な段飾りの雛人形を飾りつけにきてくれています。清掃は朝食後、掃除機とハンディモップで利用者もおこない、それぞれが担当をもって勤しんでいてリビングは大変清潔です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング等共用空間は入居者同士で過ごすことが多いのですが、時には一人の時間が持てるようにも気を付けています。気の合う方は、時にはユニットを越えて一緒に過ごせる環境を提供することもあります。食事の席配置も関係性を考慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の自宅から、本人が使い慣れたなじみのもの、思い出のあるものを持参していただき、本人が違和感なく心地よい生活の場となるようにしています。本人の希望があれば、適宜模様替え等もお手伝いします。	多肉植物、観葉植物を窓枠いっぱい並べ、ティッシュボックスを再利用した手作りケースやお手製の服を着たキューピー人形など愛着あるものに囲まれている居室は生命力に溢れ、その人らしく暮らしていることが覗えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの理解度に差があるため、当たり前である場所も入居者全員が理解できるよう表記をしたり、分かりやすい方言を取り入れたり、目印をつけたりするなど、不安なく安全に生活していただけるよう対応しています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296300060		
法人名	株式会社 健康第一調剤薬局		
事業所名	グループホームたんより さざんかユニット		
所在地	静岡県周智郡森町草ヶ谷212-1		
自己評価作成日	平成30年2月7日	評価結果市町村受理日	平成30年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2296300060-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2296300060-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

出来るだけ家庭的な雰囲気を入れ、入居者にとって心地よい生活空間となり、第二の我が家と感じていただけるよう、日々支援しています。入居者一人ひとりのできること、能力や状態を理解しそれぞれの方が役割を担うことで、今ここに自分が存在している意義を実感できるよう心掛けています。穏やかな生活の場の確保だけでなく、季節の行事や外出なども積極的にこなしています。また、入居者だけでなくご家族との時間も大切に、信頼関係を構築できるよう努めています。地域の方々との交流も今では当たり前になりつつあります。役場や病院とも連絡を取り合い地域密着型サービスとしての当施設の存在を確立していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が替わり、新法人の方針が事業所、職員にとって「よかった」と思えることが多く、「従業員満足は利用者満足にもつながる」「職員がこれがいい、大切だと思えばやってもいいですよ」との声に押されて、何事も緩やかになったとの変化が生まれています。その成果の一つとして地域との交流が増え、昨年7月には地域包括支援センターと併催で森町初の「認知症カフェ」開催が叶い、近隣から約50名が集うに至り第二回開催につながっています。二回目は主催メンバーに高校も加わり、会場をたんよりに移すとともに高校生主体で企画運営されるということで話題を呼び、静岡新聞「全国認知症カフェガイド on the WEB」にも掲載されました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は『やさしさ・安心・安寧』を掲げ、入居者様一人一人がその人らしく穏やかに生活できる場を提供することを常に意識しています。また、理念とは別にたんよりのスローガンを掲げ、各ユニットで目標としています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のボランティアの方々が定期的に来所され、レクリエーション参加や畑の手入れ、農作物の差し入れをして下さっています。ホームのイベントの参加していただいたり、またホームからも積極的に地域のイベントに参加し、交流の場が広がっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	たんよりの現状については、たんより通信として町内に回覧配布をしたり、運営推進会議で報告したりしています。また昨年度は2回ほど認知症カフェを開催し、地域の方と介護や認知症について話し合う場を設け、お互いに理解を深めました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在のたんよりの取り組みや課題等を報告し、ご意見をいただいています。実際にレクリエーションの提案・アドバイスを受け、認知症カフェや高校生との交流、また日々のアクティビティに取り入れています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場や地域包括の窓口には積極的に訪問し、相談や協力を直接行うようにしています。町の介護相談員とも連絡を取り合い、イベント等には意見をいただき、参加もいただいています。認知症カフェも共同開催しました。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を継続しており、日々のケアに取り組んでいます。玄関については、拘束というよりも防犯の要素を含み、実際に防犯訓練も行いました。外出したい入居者には、職員が付き添い対応しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ニュースや他施設の状況等も含め、虐待について職員で考える機会を持つようにしています。ホーム内で勉強会を行い、入居者への対応方法を学習する機会を持ち、常に意識するように努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、該当する入居者はいないが、知識のある職員が話題を提示し、話し合うことはあります。今後はホーム内だけでなく地域の勉強会等も活用し、知識を深めていくようにしていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約についてはご家族様にお時間を確保していただくようにし、丁寧に説明することを心掛けています。特に入居時は不安だと思われるため、できるだけ入居者やご家族の立場に立つようして分かりやすい説明を行うようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時には必ず状態報告を行い、ご家族の意見も聞きながらケアを行うようにしています。また、運営推進会議には毎回違うご家族に出席していただき、ご家族の思いを表出いただいています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日、朝礼時にカンファレンスを行い、問題点や改善点を持ち越さないように解決に努めています。月に1度のホーム会議やユニット会議等の開催、また半年毎に代表者と面接を行い、業務に対する意向を確認する場としています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自の目標を設定し、それを達成できるよう日々の業務やイベント等の取り組みにつなげ、仕事としてのやりがいにつなげられるようにしています。また、職員一人一人の事情を加味し、働きやすい環境となるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特にホーム内での勉強会や研修を主に行っています。全員出席で、日々の業務に取り入れられるような内容を中心としています。職員それぞれの資格や経験も違うため、各職員に合ったトレーニングを行うようにし、それぞれが自信を持つるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今までになかった、町内のグループホームや小規模多機能ホームとの交流が頻繁にできるようになり、職員や入居者の行き来をするようになりました。認知症カフェも一緒に開催したり、職員同士も交流ができるようになってきています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学时や入居申し込み、また事前訪問に至るまで、またそれから入居までに、病状経過や現状、心配や不安なことを把握するため、ケアマネージャーや利用施設、地域包括等と連絡を取り合い、入居者を理解するように努め、安心できるようなケア提供ができるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記において、困っていたり不安に思うこと、疑問点や希望などを確認、情報収集し、入居時までに環境を整え、ご家族が問題と思うことを一緒に解消できるようにしていきます。契約時においても情報交換をしながら、関係を築いていきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やケアマネージャー、また病院やデイ、ショートステイ等と常に連携を図り、ご本人にとり今どうしたら一番ベストなのか、何が必要なのかを見極め、サービス決定に参加しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内の家事等(洗濯物を干す・たたむ・食事準備・後片付け・掃除・玄関先の植木の手入れ・畑の管理や収穫など)入居者ができることは一緒に行っています。現に、一人一人の役割分担がなされており、入居者同士が協力合っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が入居者と入居以前からの関係が保てるよう、面会や外出泊はいつでも自由にできるようにしています。また、イベントやレクリエーションなどにも気軽に参加していただいています。ご家族様と一緒に過ごすことも年に1度開催しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の思い出話や昔話について傾聴するようにしています。なじみの人や場所については、連絡を取ったり外出したりして、関係が途切れないよう支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う・合わないが生じてしまうのは避けられないことですが、入居者同士の関係性を把握し適宜、ホールでの席の配置等を考慮しています。イベントやレクリエーション、趣味の場においても並び方や順番等配慮し孤立してしまうことのないようにしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状では、ほとんどの入居者が看取りまで入居していますが、今後退去等があれば必要に応じ経過のフォローや支援対応していくように努めます。死亡退去の方には、デスカンファレンスを通して職員からのメッセージをご家族へ届けるようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の情報等から、入居者の希望や意向を把握し対応しています。また入居後は、本人やご家族から情報収集を継続し、ニーズを相談しながら個別的なケアを行うようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設見学や入居申し込み、事前訪問、契約時等に生活歴や今までの経過を伺い、把握するようにしています。また不足ならばケアマネージャーや利用していた施設等に確認するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況を記録に残し、職員一人一人が情報を共有して、できることは行っていたりようなケアにつなげています。日頃より提携病院との連携を図り、体調変化があれば速やかに受診するなど対応しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の訴えやご家族の意見や希望を反映し、職員間でカンファレンスにて検討し、介護計画を立案しています。現状を常に把握するようにし、反映させるようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の様子・状態を記録としてカルテないし記録用紙に記入しています。状態変化やケアの変更・また職員の情報共有の必要時はカンファレンスを行い、計画の見直し等に反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状況に応じて、希望に出来るだけ即した対応(具体的には定期外の入浴・ドライブや買い物等の外出等・植木の手入れ管理等)を行っています。ご家族にも適宜協力をお願いしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方々や地域役員、またボランティアの方がいつでも気軽に来所していただけるようになっています。そのために日頃からコミュニケーションを図り、信頼関係を築くよう心掛けています。イベントやレクリエーションなど、普段できない活動にも協力していただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診は月に一度、公立森町病院の院長が主治医として診察しています。入居者に体調変化がある場合は、病院の往診担当看護師や薬剤師と連携を図り、必要であればスムーズに受診ができるようにしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	たんより職員の看護師が介護職員と連携を図りながら、病状や状態変化に対応しています。看護師は24時間待機しており、少しの変化でも速やかに報告し、必要であれば病院看護師へ相談・連絡し対応するようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前より病院と連絡を取り合うようにしています。入院が決定した時点で、ホーム入居中の生活状況を速やかに伝達し、入院生活において活用していただいています。面談等にも積極的に参加し出来るだけ早期に退院できるよう、医師を始め病院スタッフと情報交換しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時のタイミングで、ご家族と状態変化や病状悪化・看取りの時期になった時にどのようにしていくのかということ話を話し合う機会を持っています。また初回往診時にご家族立ち合いの下、主治医と共に本人・ご家族の意思の確認をしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応について、勉強会や研修を随時行っています。地域の防災訓練などにも参加し、応急手当や初期対応の訓練と一緒に行うようなこともしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防火・防災・水害訓練を行い、避難する方法を職員だけでなく入居者と共に身につけるようしています。また地域の町内会長や役員の方、近隣の方にも日頃から実際の災害発生を意識して、協力していただける体制をとっています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症があっても入居者の人格を尊重し、人生の大先輩として対応するよう意識してケアをしています。入居者一人ひとりの世界観を尊重し、人としての誇りやプライバシーを損ねないようにしています。勉強会も行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりの気持ちや思いを尊重し、表出しやすい状況作りに努めています。また、職員が決めるのではなく、入居者本人が自己決定し選択できるような生活支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日、また一週間等の予定はありますが、入居者の状態や状況により、強制をすることなく自分のペースで生活できるよう、臨機応変に対応しています。希望があればレクリエーションや散歩、ドライブ、買い物等の支援もします。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者一人ひとりの好みや趣向を把握し、髪型やお化粧、ファッションなど本人の希望に沿うよう支援しています。イベントとしてお化粧レクやネイルレクを行うなど、おしゃれの気持ちを忘れないでいただくようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理レクなどにおいて、野菜の下ごしらえや簡単な調理は、危険のないよう出来る入居者をお願いし、職員と共に行っています。後片付けは入居者の役割として位置付けられ、自ら進んで行ってくれています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や以前からの嗜好、好みを考慮しながら、入居者一人ひとりの栄養状態、水分摂取量を把握しています。食欲がない、または状態変化により摂取困難となった場合は、食べたいもの、摂取できるものを提供するようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各入居者に対し口腔ケアを促し、自分で出来ない人には介助しています。義歯使用者が多いので、管理もします。必要ならば速やかに歯科受診も検討し、対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	まずは入居後の排泄パターンや回数を記録し、把握するように努めています。できるだけトイレで排泄ができるよう、サインを見逃さないようにしています。訴えない方は、誘導し対応しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬の処方に頼ることなく、乳製品やオリゴ糖、オリーブオイル等を取り入れ、排泄を促すようにしています。全身体操を行うなど、運動面でも排便できるよう対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員や施設の都合で入浴するのではなく、入居者が入りたいタイミングで入浴できるように配慮しています。拒否がある場合は無理強いすることなくタイミングを図って対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者それぞれの生活リズムを把握し、その人のペースで休息や入眠が出来るように対応しています。常識にとらわれず、寝つきの悪い方には夜の女子会を行うなど、職員も一緒に寄り添うようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問薬剤管理指導を利用しており、薬剤に関しては担当薬剤師に確認し、指導を得ています。効果や副作用、用法、用量を理解し、薬剤によっての体調の変化を観察しています。介護職員にも指導し、確実に内服や塗布が出来るよう対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お掃除や食事の片付け、洗濯物畳み、畑仕事や植木の手入れなど、入居者それぞれの得意な分野で役割分担をし、活躍の場を提供しています。やりがいを感じ、生きている実感を抱いていただけるよう、支援します。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外の空気を吸いたい時には、玄関先で女子会をすることがあります。また、希望があれば散歩やドライブ、買い物に出かけます。季節を感じる場所(桜や菖蒲、紅葉等)へは積極的に出かけています。外出レクとして、たんよりバス旅行等も行いました。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人ひとりにつき小口現金(お小遣い)を預かっており、一緒に買い物に行ったり、職員が代行して買ったりしています。お金を使った場合には、本人に説明し、理解していただくようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については本人の希望があれば随時対応しています。実際にお話しされると喜び、落ち着きます。手紙については預かり次第速やかに投函します。年末には全員が年賀状を書きました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の目線ではなく、入居者やご家族の目線で環境を整え、居心地が良い空間となるよう常に意識するようにしています。自宅のようにリラックスできるよう、時には模様替えや配置換えを行います。壁の装飾や絵画等も季節を意識して飾っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング等共用空間は入居者同士で過ごすことが多いのですが、時には一人の時間が持てるようにも気を付けています。気の合う方は、時にはユニットを越えて一緒に過ごせる環境を提供することもあります。食事の席配置も関係性を考慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の自宅から、本人が使い慣れたなじみのもの、思い出のあるものを持参していただき、本人が違和感なく心地よい生活の場となるようにしています。本人の希望があれば、適宜模様替え等もお手伝いします。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの理解度に差があるため、当たり前である場所も入居者全員が理解できるよう表記をしたり、分かりやすい方言を取り入れたたり、目印をつけたりするなど、不安なく安全に生活していただけるよう対応しています。		